

講義名	旅館事業経営論			授業形態	
担当教員	久保 泉	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

本授業は、日本の旅館事業を対象に、宿泊業を設備（和風／洋風）や法制度ではなく、価値創造の仕組み（事業設計）として理解することを目的とする。また、旅館の歴史・空間・人的サービス・地域密着性を理論的に整理した上で、泊食分離・都市型温泉旅館・海外展開といった近年の変化を、「ホテル化」ではなく旅館事業モデルの再設計として分析し、最後に旅館の海外への展開を事例から、「旅館とは何か」という定義の妥当性を検証する。

到達目標

- ・旅館とホテルの違いを、設備（和風／洋風）ではなく、公共空間と私的空間の設計思想、人的サービス、事業モデルの観点から説明できる。
- ・旅館事業を「人間関係（相互作用）」「統合体験（食・酒・時間）」「文化様式（作法・儀礼）」を核とするサービス事業として理論的に理解し、言語化できる。
- ・旅館における地域密着性を「立地」「資源」「ネットワーク」の3類型で整理し、温泉地型・都市型・海外展開の違いを分析できる。
- ・泊食分離・女将不在・都市型温泉旅館といった近年の変化を、「ホテル化」ではなく、旅館事業モデルの戦略的再設計として評価できる。
- ・国内外の旅館事例（都市部・海外を含む）を用いて、旅館事業モデルが異なる文化・地域環境でどこまで成立するかを理論的に検証できる。
- ・「旅館とは何か」という問いに対して、歴史・空間・人的サービス・地域性の視点を統合し、自らの言葉で論理的に論じることができる。

提出課題

- ・毎回授業後にミニットペーパーの提出を求めます。
- ・期末レポート(旅館事業経営の視点から論述、1000字程度)の提出を求めます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出されたミニットペーパーの中から質問、コメントに対して、次回授業においてフィードバックします。

評価の基準

ミニットペーパー(40%)、期末レポート(40%)
以下の点において評価します。
・授業で取り上げたキーワードを正しく理解し、述べられているか。
・課題に対して自分自身の考えが論理的に述べられているか？
授業における積極的な発言(質問、意見等)を歓迎し、評価する。(20%)

履修にあたっての注意・助言他

旅館とホテルの違いが明確でなくなっているからこそ、この講義を通して「旅館とは何か」を皆さんと一緒に議論しながら整理して、理解を深めていきましょう。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

教員作成の資料に基づいて授業します。

授業計画

1. 導入：なぜ今「旅館事業論」なのか
本講義全体の問題意識を共有する。旅館業法上はホテルと旅館の区分が統合されたにもかかわらず、実務・体験・経営の次元では明確な差異が存在する理由を整理し、本授業が「旅館を独立した事業モデルとして扱う」意義を示す。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(120分)
2. 旅館の歴史的形成
宿駅制度、湯治、門前町などを手がかりに、旅館が単なる宿泊施設ではなく、地域社会や移動文化の中で形成されてきた存在であることを確認する。歴史的背景から、旅館が担ってきた社会的役割を理解する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
3. 旅館業法と事業実態
旅館業法の改定と、2018年の制度統合の趣旨を整理する。そのうえで、法制度の同一化が必ずしも事業モデルの同質化を意味しないことを、ホテルとの運営・サービス設計の違いから考察する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
4. 旅館の空間構成とサービス設計
和室・動線・客室内サービスといった空間構成が、どのように人的サービスや顧客体験を規定しているかを分析する。旅館における「私的空間にサービスが入り込む」構造の意味を理解する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
5. おもてなしと人間関係中心モデル
おもてなしを精神論ではなく、価値創造の仕組みとして捉える。旅館における先読み、察知、文脈理解といった行為を、価値共創や高文脈文化の理論と結びつけて整理する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
6. 人的サービスと役割人格
女将・仲屋といった役割人格が、旅館の体験価値にどのように影響してきたかを検討する。同時に、属人的サービスをどこまで組織化・再現可能にできるのかという現代的課題を考える。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
7. 旅館の収益構造と統合体験
一泊二食モデルを中心に、旅館が「宿泊・食事・時間」をどのように統合して価値を提供してきたかを分析する。利益最大化ではなく、満足度や再訪を重視する収益設計の特徴を理解する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
8. 地域観光と旅館 地域密着性の理論
旅館の地域密着性を、「立地」「資源」「ネットワーク」の3類型で整理する。温泉地旅館が地域とどのように結びつけてきたかを理論的に説明する仕組みを提示する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
9. 都市型温泉旅館と地域性の再編築
都市部に立地する温泉旅館を取り上げ、地域密着性が「場所」ではなく「資源や関係性の構築」によって成立しうることを考察する。地域性概念の再定義を行う。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
10. 泊食分離と旅館事業の変容
泊食分離を「旅館のホテル化」と相格的に捉えるのではなく、アンバンドリングや顧客選択性の観点から分析する。旅館事業がどのように再設計されているかを検討する。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
11. 家族経営から組織経営へ
旅館に多い家族経営の特質と限界を整理し、事業承継や雇用型経営への移行を検討する。伝統と組織化の両立という課題を経営学的に考える。
予習内容：事前に提示する資料等を目を通し、概要を把握した上で講義に出席する(60分)
復習内容：講義資料やノートを見直し、理解を深めた上でミニットペーパーの作成に取り組む(180分)
12. 現代型・再生型旅館

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は、旅館事業を通じてサービスの社会構造と人間行為の関係を分析し、観光ビジネスの仕組みと経営構造を理解するとともに、国内外の事例比較を通じて新たな付加価値を創出する思考力を養う科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義中にresponを活用して、履修生から意見、コメントを広く集めることがある。課題の提示および提出にICTを使用する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
教員はホテル運営現場(宿泊部門、営業部門、管理部門)経験、およびチェーンホテル本部における海外ホテル運営管理業務に携わった実務経験に基づいて、ホスピタリティ、サービス、宿泊事業等に関する学生の学修意欲に応える。

備考